

「愛によって歩みなさい」

テレビアニメ『それいけ！アンパンマン』の初回放送は1988年10月3日。スポンサーが付かず、関東地区ローカルだけの放送でした。「一年保てば良いですね」と言われたこの作品が、38年目を迎える今も放送され続けているとは誰も予想しませんでした。

原作となる『あんぱんまん』が刊行されたのは1973年。当時は「自分の顔を食べさせるなんて残酷だ」との批評が続いたといひます。「自己犠牲の精神はわからないでもないけれど、そこまでさせなくても良いのでは」との思いがあったのだろうと想像します。「良識的な『オトナ』なら、そんなことはしないだろう」との思いもあっただろうとも。しかし、そのような「オトナ」たちの予想に反して、未就学児、特に3歳以下の子どもたちにアンパンマンは絶大な人気を誇ります。「ぼく、胸の中がとってもホカホカしてるよ。人を助けるってこんなに胸が温くなるものなの？」というアンパンマンの言葉をそっくりそのまま心に宿することができるからでしょう。

打算や自己満足ではなく、ただ相手のために仕える。それが「愛」です。

イエスは「これまでいろいろな神の掟を守ってきた金持ちの青年」に「もし完全になりたいのなら、行って持ち物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それから、わたしに従いなさい」(マタイによる福音書19:21)と言われました。自分を高みに置いたまま手を差し伸べるのではなく、貧しい人、困っている人の目線に降りていき、そこから始めなさいと言われました。けれども、青年はその言葉に従うことなく、悲しみながら去って行きました(「青年はこの言葉を聞き、悲しみながら立ち去った。たくさんの財産を持っていたからである。」マタイによる福音書19:22)。「良識的なオトナ」だった彼は、すでに自分に与えられている恵みを放棄してまで、他者に仕えるという選択はできなかったのです。

では、イエス自身はどうだったのでしょうか。イエスは小さくされている人、弱りを覚えている人のところへ足繁く通われました。律法を破ると責められても、その足を止めることはありませんでした。そればかりか、逮捕され尋問されても自己弁護さえされませんでした。そして、私たちの罪のため十字架につけられることも厭わず、「御自分を香りのよい供え物、つまり、いけにえとしてわたしたちのために神に献げてくださった」(エフェソの信徒への手紙5:2)のです。

そこには打算も自己満足も何一つありません。ただ「キリストがわたしたちを愛して」おられたから、一連の出来事は起こったのです。「良識的なオトナ」として振る舞うよりも、身を粉にして他者のために働くこと、愛を貫くことの方が大切だと身を以て証しされたのです。

だから、「あなたがたも愛によって歩みなさい」(エフェソの信徒への手紙5:2)と手紙は続けます。神は「わたしを愛し、わたしの戒めを守る者には、幾千代にも及ぶ慈しみを与える」(出エジプト記20:6)と約束してくださっているのだから、その慈しみを隣人へ、そのまた隣人へと広げて行くことで、この世界は豊かさで満ちあふれたものになるだろう、と。

今日も日本全国で「子ども食堂」や「フードバンク」、「フードドライブ」が行われています。そのために労しておられる一人ひとりにはきっと、胸をホカホカさせて働いておられることでしょう。そこには愛が溢れています。

もっとも、個人的な「愛」だけで全ては解決しません。社会全体、世界全体が「愛」によって突き動かされる時、真の平和が実現します。この私の手一つには、世界を変える力はないかもしれないけれど、それでも、「むなしいものを見ようとするところから／わたしのまなざしを移してください。あなたの道に従って／命を得ることができるよう」(詩編119:37)と願った詩人のように、まっすぐに神を見上げて歩みたいのです。

この世界に生きる一つひとつの命が、「愛によって歩むこと」を期待しながら、この世界全体がそうなるように期待しながら、まずは自分自身の毎日から始めようではありませんか。

